

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	大阪市立豊崎小学校
授業者	長谷川 舞

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

海とわたしたち

#### 1-2. 学年

第6学年

#### 1-3. 教科（単元

#### 1-4. を実施する教科を全てお書きください

総合的な学習の時間・図画工作科

#### 1-5. 単元の概要

- ①「海ごみ」調査（2時間）総合  
・どんなごみがあったか分別しよう。
- ②修学旅行を振り返ろう（2時間）総合  
・みらいへの方と一緒に修学旅行の活動を振り返り、「海の環境問題」について一人一人が考える。
- ③「海ごみ」でアート作品をつくろう（4時間） 図画工作科  
・小学校や地域の方に「海の環境問題」について考えてもらえるような作品をつくる。

#### 1-6. 単元設定の理由・ねらい

事後学習では、みらいへの方と一緒に、修学旅行の活動を順を追って振り返り、仲間と協力して活動したことや、一人一人が失敗を恐れずチャレンジした経験を学級全体で共有できるようにしたいと考えた。その上で、自分たちにできる「海ごみ」を減らす方法を考えることができるようにした。

さらに、「海ごみ」を使って、「海の生き物」というテーマで、活動班ごとにつくりたい生き物を決め、構想を練るようにすした。そして、作品展に来ていただいた方々に、自分たちが修学旅行で行った友ヶ島の現状と「海の環境問題」について報告し、みんなが考え行動するきっかけになるような展示の方法もあわせて考えていくようにした。

#### 1-7. 育みたい資質や能力、態度

体験活動を通じて、苦手なことにもチャレンジし、仲間との繋がりを大切にし、諦めずに取り組むことができたか振り返り、今後の生活に生かしていく。

作品展に向けて、「海ごみ」で作品をつくり、修学旅行での取り組みや体験を通して学んだ「海の環境問題」について意欲的に発表する。

1-8. 単元の展開（全8時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ・ 2	①「海ごみ」調査 ・どんなごみがあったか観察しよう。	○ビーチコーミングで拾った「海ごみ」には、どんなものが多いのか観察しながら、作品づくりのために「海ごみ」をきれいに水で洗うようにする。 ・「海ごみ」を観察し、どんなものが多いのか、自分の意見をもつことができたか。
3 ・ 4	②修学旅行を振り返ろう ・みらいへの方と一緒に修学旅行の活動を振り返り、「海の環境問題」について一人一人が考える。	○修学旅行の活動を、順を追って振り返り、仲間と協力して活動したことや、一人一人が失敗を恐れずチャレンジした経験を学級全体で共有できるようにする。 ○自分たちにできる「海ごみ」を減らす方法を考えることができるようにする。 ・修学旅行の活動を振り返り、経験したことをこれからの生き方に生かしていくという態度が育ったか。
5 ～ 8	③「海ごみ」でアート作品をつくらう ・小学校や地域の方に「海の環境問題」について考えてもらえるような作品をつくる。	○「海の生き物」というテーマで、活動班ごとにつくりたい生き物を決め、構想を練るようにする。 ・海の環境問題を意識しながら作品づくりに取り組んだか

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

海洋での体験活動を通じて、環境保護に対する理解を深める。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1、どんな作品をつくるのか、「海ごみ」を観察しながら考える。  2、海の生き物を制作する。	○活動班ごとに、見る人が「海の環境問題」について考えさせられるような作品になるように助言する。  ○活動班で協力しながら、グルーガンや両面テープを使って、イメージに近づくように作品づくりをするようにする。  1 班：アザラシ 2 班：クジラ 3 班：ウミガメ

## 3. 今回の活動の自己評価

今回の活動により、修学旅行前よりも海に親しむことや、海を守るという意識を養うことができた。  
作品展に向けては、指導者が助言しなくても、今までの学習の中で目にしてきた、「海ごみ」に苦しめられてきた生き物（プラスチックの輪が口にはまったアザラシ・胃の中からプラスチックごみが出てきたクジラ・ビニールのひもで甲羅が変形したウミガメ）を作品として作り上げた。このように今回の経験をここで終わらせるのではなく、それらを広げ繋いでいく。また、作品展のように他の教科にも関連させ、今後も海洋教育に繋がる指導をしていく。

## 4. 今後の課題

自分たちが修学旅行で学んだことを、これからの生き方に生かせるよう、常に意識させていくことが必要である。

## 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。